

2019年度 筑波大学附属図書館 事業報告

次世代学習スペース整備検討～「アクセシブルな学術図書館」

学習支援



統合後のカウンター

次世代学習スペース整備事業においては、昨年度策定したロードマップから、その初期整備として、来館する利用者を選ばないアクセスしやすい基礎的環境整備に着手しました。

まず、障害のある利用者が安全に利用できるよう駐輪場の再整備やユニバーサルデザイン使用のローカウンターの導入を検討実施し、介助がしやすいよう当館ボランティアカウンターを入館ゲート付近に移動させました。その他、既存のカウンターを統合し、若干のレイアウトの変更により、ワンストップサービスの実現や利用者スペースの拡大を図り、また長時間滞在型利用者のための飲食スペースの拡大試行を実施し、図書館サービスによりアクセスしやすい学習空間を整えました。

多様化する支援

学習支援



視覚に障害のある学生とピア・チューター対象の図書館講習会

障害のある学生と、障害のある学生を支援するピア・チューターを対象に図書館講習会を開催しました。2019年度は視覚障害のある学生を対象に図書館の使い方の講義を行い、拡大読書器等の館内支援機器設置場所の見学、附属図書館ボランティアによる対面朗読の体験をしていただきました。対面朗読室を車いす使用者の研究個室としても利用できるように整備し、入退館ゲート近くに車いす専用のロッカーを新設しました。また、障害のある学生への資料電子化サービスを本実施し、PDF26件、テキストデータ15件を提供しました。

新入留学生向けには例年の留学生オリエンテーションに加え、「Information for New International Students」を作成し、図書館webサイトで公開しました。

附属図書館ラーニング・アドバイザー（LA）活動報告

学習支援



現役大学院生がおくる あなたのまだ見ぬ大学院の世界【だから私たちは大学院生になった！】 展示風景

LAは学生サポートデスクでPC関連、ライティング等の学習相談を中心に様々な質問に対応しています。今年度は担当職員がしよりの配布やポップの掲示で学生にPRし、450件を超える相談がありました。

10月には卒業論文・修士論文の執筆を控えた学群生や修士大学院生を主な対象にLAセミナーを開催し、「執筆の参考になった」との声が寄せられました。また、10月から11月半ばまで、大学院進学を考えている学群生に向けてLA自身の進学プロセスや研究生生活をポスターで紹介し、進学に役立つ図書を展示する企画を行いました。展示図書は学群生のほか、研究生や大学院生にも借りられていました。セミナー、展示とも、学生視点での企画が好評を博しています。



つくば市域図書館連携に関する協定書締結式

筑波大学附属図書館は、館種を越えた図書館連携による地域の活性化を目指し、9月25日に「つくば市域図書館連携に関する協定書」をつくば市立中央図書館と締結しました。また、同日、「つくば市域図書館連携協議会」を発足し、将来に向けてつくば市内の他の図書館等の参画を予定し、参画館による1)情報資源や活動成果の交流と活用、2)共同事業の企画及び実施、3)その他連携の推進を行うこととしました。

これらを記念し、11月2日には当館を会場に、つくば市長や永田学長を交えてセレモニーを行い、野外で読書を楽しむ市民との交流イベント「ライブラリーピクニック」を開催し、同日の学園祭とも重なり、盛会となりました。

近隣高校への「高大連携図書館サービス」

社会貢献



竹園高校教諭向けの文献の探し方講習会

竹園高校国際科の生徒向けに、2009年度から、探Q（課題研究）のために筑波大学附属図書館の使い方の説明会を実施しています。加えて今年度は、高校からの要望を受け、探Qを指導する教諭向けに文献の探し方講習会を実施しました。

さらに、近隣で課題研究を熱心に行っている茗溪学園および並木中等教育学校を訪問し、各校担当教諭と司書にヒアリングを行いました。竹園高校も含めた近隣3校から附属図書館への要望を確認し、2020年2月に図書貸出・レファレンス・各校からのニーズに合わせたサービスから成る「高大連携図書館サービス」を整備しました。今後は連携を進め、サービスの定着を目指しています。

大学イベントへの参加

社会貢献



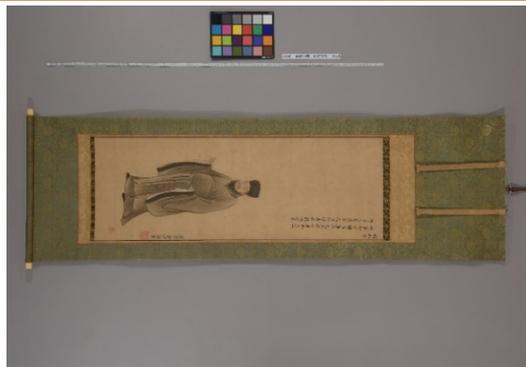
ライブラリーピクニック会場

令和元年8月3日（土）・4日（日）・10日（土）に開催された受験生のための筑波大学説明会（オープンキャンパス）において、説明会参加者を対象とした附属図書館見学を実施しました。3日間で8,000人を超える見学者があり、各図書館での見学や図書館見学ガイドやブックカバーの配布など好評をもって終わりました。

つくば市立中央図書館との協定締結を記念し、令和元年11月2日（土）にイベント「ライブラリーピクニック」を開催しました。このイベントは、日常とは異なる環境での読書や憩いの場としての図書館を楽しみつつ、図書館を介した利用者同士の交流を促したものとして、つくば市図書館懇話会・筑波大学ストーリーテリング研究会・横浜市に活動拠点を置くつづきブックカフェ等の協力を得たものです。学園祭会期中ということもあり、多くの学生や近隣住民の来訪がありました。

狩野山雪筆「歴聖大儒像」6幅の修復実施

社会貢献



「程叔子」

附属図書館で所蔵している狩野山雪筆「歴聖大儒像」は、寛永9年（1632）に制作された儒者像が描かれた掛幅装であり、本画像の制作にあたっては、林羅山ら関わっていることが複数の文献資料から知ることができる貴重な資料です。当該資料は、経年による汚れの付着に加え、折損の発生等も見られ保存と公開が困難な状況でしたが、2019年度から朝日新聞文化財団助成を受けて、3幅本格解体修理、3幅簡易修理として保存修復作業を開始しました。

2020年度からは、出光文化福祉財団と住友財団からの助成も決定し、2021年度にはすべての本格解体修理が終了する予定です。

「令和元年度筑波大学附属図書館特別展～東京1964と日本文化について考える～」を開催

社会貢献



オリンピック招致活動資料 写真集「日本」

11月1日～12月6日まで、中央図書館において、体育系との共催による特別展を開催しました。本特別展は、日本がどのようにオリンピックを受容し、東京開催を実現しようとしたのかを、附属図書館所蔵の資料から考えていくもので、本学における「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会参画プログラム」の一つとして開催されました。

展示では、オリンピック招致活動に関する資料を中心に貴重資料47点を公開するとともに、国立競技場に掲げられた五輪旗や記念マスコットなども展示しました。

会期中には、展示を企画した本学教員による特別講演会およびギャラリートークも開催され、学内外から1,940名が訪れ貴重な資料を観覧しました。

図情図書館メディアミュージアムでの展示開催

社会貢献



メディアミュージアムでの展示

図書館情報学図書館では、メディアミュージアムにて、8月1日から9月27日まで企画展示「神話の里と連歌」を開催しました。本展示は、石岡市立中央図書館創立130周年記念事業を後援する図書館情報メディア系との共催で企画したもので、石岡市立中央図書館の旧蔵書（「書籍館」資料）の特別出品も行い、図書館情報メディア系の研究成果発信と石岡市への地域貢献を、図書館として支援する取り組みとなりました。

会期を大学説明会の時期に合わせて開催し、一般市民と共に高校生やその保護者等多数の来場者がありました。

「新日本古典籍総合データベース」への本学資料提供掲載

情報発信



本学所蔵「救荒本草」のデジタル画像

本学は、国文学研究資料館が中心となって行われる「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」(2014～2023年度)に拠点連携大学として参加し、歴史的典籍データベース構築にかかる資料の画像を提供しています。

「新日本古典籍総合データベース」は、日本古典籍ポータルサイトとして、国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像を利用することができます。

附属図書館では、外部資金にて2016～2019年度に医学・理学・産業・地理・言語分野等の古典籍を中心に2,714点の電子画像データを作成しました。現在、データベースでは640点の画像が公開されていますが、作成された画像については順次公開される予定です。